

上川陽子総理特使による「国連水会議 2023」等会議概要

1. 第6回国連水と災害特別会合 (3/21)

(1) 全体会合

上川総理特使は、オンラインで2021年に開催された第5回会合に続き、4年ぶりの対面会合として開催された「第6回国連水と災害特別会合」に出席した。全体会合では、開会式ののち、天皇陛下による御講演が行われた。



(2) ハイレベルパネルディスカッション

各国閣僚級の参加者による「水・災害リスク軽減」をテーマとしたパネルディスカッションに出席し、上川総理特使は、パラダイムシフトの必要性を強調したほか、2022年4月に熊本市で開催された「第4回アジア・太平洋水サミット」で日本政府が発表した「熊本水イニシアティブ」を引用しつつ、リスク評価や複合的な便益を持つ対策の重要性を訴えた。



(3) 科学技術パネル「ショーケース」

アジア（熊本市）、アフリカ（マラウィ）、ラテンアメリカ（ホンジュラス）における、水と災害管理に関する取り組みが紹介され、上川総理特使は、それらの取り組みを踏まえ、知の統合の必要性、ファシリテーターの有用性、多様な分野の関係者による協力の重要性などについてコメントを行った。



2. 国連水会議 (3/22-24)

(1) 全体討議（国別スピーチ） (3/23)

国連総会議場において、195（主催者発表）の参加国・機関等による演説が行われた。上川総理特使は、日本政府を代表し、地元静岡県の取り組みも紹介しつつ、気候変動による将来の変化を意識した「バックキャストिंग」及び、グリーン／グレイインフラのバランスなどの重要性を指摘し、日本のコミットメントとして「熊本水イニシアティブ」により技術面、財政面の両方で世界の水問題に貢献していくことを表明した。



(2) テーマ別討議3

「気候、強靭性、環境に関する水」(3/23)

5つあるテーマ別討議のうち3番目の討議「気候、強靭性、環境に関する水」の共同議長を、エジプトのスウィリアム水資源・灌漑大臣とともに務めた。上川総理特使は、共同議長として、多様な水災害の解決に向けた行動プロセスである「アクション・ワークフロー」を提案し、40を超える国と国際機関等から表明された様々な課題、対策、提案を、実際の行動や課題解決につながる形で提言をとりまとめた。



(3) 全体討議（テーマ別討議報告）(3/24)

国連総会議場で開催された閉会式において、上川総理特使は、スウィリアム大臣とともに、自らがとりまとめたテーマ別討議3「気候、強靭性、環境に関する水」の結果を参加各国に対して報告した。



3. サイドイベント

(1) 早期警戒システムに関する会合（WMO主催）(3/23)

上川総理特使は、世界気象機関（WMO）が主催したサイドイベントに出席し、日本の気象衛星「ひまわり」による観測データや日本で行われた数値予報データが、WMOとの協力のもと、全世界で活用されていることを強調し、WMOが主導する早期警戒システムの世界各国への展開に関して、JICAも活用した日本の貢献について発信した。



4. 安保理アリア・フォーミュラ会合(3/22)

上川総理特使は、水会議と同時期に開催された安全保障理事会の「アリア・フォーミュラ会合」に出席し、武力紛争時に必要不可欠な水とサービスを民間人に提供することを可能にするインフラの保護の重要性等についてスピーチを行った。



5. バイ会談（面会日時順）

（1）フィリピン：マーク・ビリヤール前公共事業道路大臣（3/21）

先方より、自らの政府職員としての経験も含め、JICAの過去からの支援について謝意が述べられた。上川総理特使より第4回アジア・太平洋水サミットで発表されたダバオ市の取り組みへの賞賛が示され、JICA等による二国間協力の継続について言及があった。



（2）世界水パートナーシップ（GWP）：

パブロ・ベレシアルチュア議長（3/21）

先方より、これまでのGWPの取り組みに対する日本の理解に対する感謝が述べられたのち、日本の支援の更なる拡大を要望する旨発言があった。上川総理特使はこれに対し、今後関係者で検討を進めるよう努める旨回答した。



（3）ウォーター・サニテーション・フォー・オール（WSA）：

カタリナ・アルブケルク代表（3/22）

先方より、WSAで作成した小冊子について関係者への配布に関する要請が述べられ、また5月に訪日する予定であることが伝えられた。上川総理特使からは訪日を歓迎し、小冊子は有効であり日本語の概要等があるとなお良い旨について回答した。



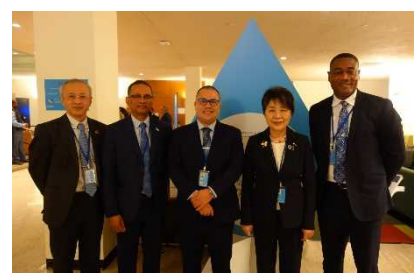
（4）国際移住機関（IOM）：ウゴチ・ダニエルズ副事務局長（3/22）

先方より、移住先における地域コミュニティ等での水の管理に際しての女性の活躍と重要性について話題提供があった。上川総理特使からは、日本でも同様であり、問題意識を共有すべきである旨表明するとともに、同じ女性として今後の協働への期待について伝えた。



（5）ジャマイカ：マシュー・サムダ環境大臣（3/22）

先方より、経年のJICAによる水道分野における支援について謝意が述べられたほか、新たな支援について要望が示された。上川総理特使からは大使館とよく協議することが望ましい旨発言があった。



(6) インド：ガジェンドラ・シン・シェカワット水活力大臣 (3/24)

先方より、第4回アジア・太平洋水サミットにおける天皇陛下の御講演について強く印象に残った旨発言があった。上川総理特使から、2019年に国土交通省とインド水活力省が署名した水分野の協力覚書に基づく両国関係強化について発言したところ、先方からインドが推進する河川整備における都市連携等について話題提供があった。



(7) ケニア：アリス・ワホメ水・衛生・灌漑長官 (3/24)

先方より、同国のダムについて JICA による計画策定、人材育成、技術協力などに対する謝意が述べられた。加えて、現在当該ダムの再開発や他の新規ダムの検討の必要性が示され、民間企業の参画等の可能性を模索しており支援があればありがたい旨が示された。上川総理特使からは大使館とよく協議することが望ましい旨回答した。

